

夏至南風

梅雨明けから6月末頃までに吹く南から南西の安定したやや強い季節風をいう。昔はこの風を利用して南方から沖縄へ、また沖縄から本土へ航海した。甘蔗の播種期にあたる。カーチーペーともいう。

2024

しまたてい

[Simatati]



【十三代尚敬王御後絵】首里市 尚侯爵家蔵 この尚敬王御後絵は、『殷姓家譜支流』によって、尚穆王三年、乾隆十九年（1754）、殷元良座間味庸昌作と知られる。この絵の中には必ずや諸臣筆頭の蔡温がいなければならない。扈從の人物中年齢七十歳頃と見える人が二人画かれており、その何れかが法司蔡温であろう。国王着用の皮弁服は前代のものに比較して甚だ華麗で、これは清朝康熙帝の優遇によると思われる。前代の御後絵は、王座の後方に衝立があり、その左右に室内器局文房の類を表してあるが、本図は金色燦然たる壁面を見せているのみ。そしてこの様式が次の代々御後絵の典型となったように見受けられる。（第3部 琉球絵画の系譜 第2章 歴代国王及び諸臣肖像画—歴代国王肖像画—御後絵（附 世子肖像画）『沖縄文化の遺宝』鎌倉芳太郎より）
※写真は今年6月米国より返還された御後絵である（詳細はP44参照）

レポートⅠ：かんちげーすなヨーくまや門道 戻る道や あがたやさ！

～本来の「門道」がなぜ「戻る道」と呼称されるようになったのか、その経緯を探る～

レポートⅡ：4.3沖縄津波警報が突き付けた、情報伝達と避難の課題
文 化：米国から返還された文化財

米国から返還された文化財

—その歴史的背景についてのメモワール—

濱地 龍磨

沖縄県教育庁 文化財課 主任
HAMAJI Tatsuma

はじめに

令和6年3月14日午後、先の沖縄戦の混乱の中で持ち出されたと考えられる文化財が米国から沖縄県へと返還された。返還された文化財の中には戦後現物の確認がされていない琉球国王の肖像画「御後絵」と考えられる絵画が含まれていたことから、返還の翌日15日に行われた玉城知事による定例記者会見での発表は国内外に大きな衝撃を与えた。

本稿では、今回の返還に至る経緯、今後の動向について簡単に紹介させていただくこととする。

1. 真栄平房敬氏による証言

今回米国から返還された文化財は、先述したように沖縄戦の混乱の中で持ち出されたものと考えられ、流出場所については琉球国王の肖像画「御後絵」と考えられる絵画が含まれていることから、過去の関係者の証言などに基づき現在の那覇市首里に所在した沖縄尚家邸中城御殿近郊と推測される。



写真-1 戦前の中城御殿(那覇市歴史博物館所蔵)

「御後絵」はもともと国王の菩提寺である円覚寺において保管されていたものであるが、沖縄県設置後に管理のため中城御殿へと移送されたと伝わる。

戦時中、最後に「御後絵」の存在を確認したの

は、沖縄尚家の家政職員として中城御殿に勤務していた真栄平房敬氏(故人)であった。

真栄平氏の証言によると、「御後絵」は中城御殿の軒先に保管されていたとのことである。1945年4月初旬に首里近郊への攻撃が激化する中で中城御殿は破壊されることとなるが、真栄平氏と他の職員が南部撤退の直前にその様子を確認した際には、奇跡的に被害を免れていたことが確認されており、真栄平氏らによって他に被害を免れた宝物と一緒に敷地内の洞穴部分に隠された。¹⁾

しかし、戦争が終結し、真栄平氏が宝物を隠した場所を確認した際には、洞穴部分はもぬけの殻となっていたという。

2. 1953年の『おもろさうし』返還

一度目の転機が訪れたのは、戦後8年が経った1953(昭和28)年のことである。1953年はペリー提督の来琉100周年を迎える節目の年であったことから、米国民政府は琉球政府および住民との友好を目的に記念式典の実施を計画していた。

記念式典を計画する中で、アメリカ本国において『おもろさうし』など複数の文化財がハーバード大学へと持ち込まれたことが判明し、これらを沖縄へと返還することで式典の目玉とすることが決定された。1953年5月24日に沖縄へと移送された『おもろさうし』などの文化財は、5月26日に開催されたペリ記念館開館式典において尚家の後見人で当時の琉球政府立法院議長護得久朝章へと手交された。²⁾

1953年の『おもろさうし』などの返還は、真栄平氏による証言の正確性を証明することとなり、同時に隠された他の宝物についても米国において発見される可能性が期待されるようになった。

真栄平氏はその後も流出した文化財の返還を求めて活動を継続することとなるが、次の転機が訪れたのは最初の返還から約半世紀の時を経た2000(平成12)年のことであった。

3. NSAFへの登録

2000年7月に九州・沖縄サミット首脳会合が沖縄県において開催されることが決定されると、在沖米国総領事館を通して沖縄の流出文化財について貢献できることがないか、との打診があったという。この打診には真栄平氏による活動に影響を受けた当時の在沖米国総領事館職員高安藤氏の発案によるものであったとされる。

打診を受けた沖縄県教育委員会は、九州・沖縄サミット終了後の同年10月より米国国務省が主催するIVLP (International Visitor Leadership Program) を活用し、流出文化財にかかる法的解釈や手続きについての研修と文化財の調査のため、真栄平氏および文化課職員2名の計3名を派遣することとなった。

派遣時の流出文化財発見は1点に留まったが、派遣を契機として在沖米国総領事館から正式なリストを作成した上で、FBIの「国家盗難美術品ファイル(NSAF)」への登録を助言されることとなる。



写真-2 十八代尚育王御後絵。鎌倉芳太郎撮影(沖縄県立芸術大学附属図書館・資料館所蔵)

助言を受けた沖縄県教育委員会は、戦前に鎌倉芳太郎氏によって撮影された白黒写真や真栄平氏による証言をもとにリストを作成し、2001

(平成13)年に王冠・御後絵など13点を「盗難美術品」としてFBIやインターポールへと登録した。

4. アメリカでの発見と返還

事態が急転したのは、2001年のNSAFへの登録から22年経った2023年3月のことであった。

FBIから外務省を通して、NSAFへと登録されている美術品と考えられる絵画が米国内で発見されたという報告が沖縄県教育委員会へとなされたのである。この報告と前後してFBIによって、スミソニアン博物館協会国立アジア美術館の協力のもと文化財の鑑定が実施され、「沖縄由来の文化財である可能性が高い」旨の結果が出されることとなった。

沖縄県教育委員会は、スミソニアン博物館協会国立アジア美術館による鑑定とFBIから提供された高精細画像をもとに、返還・移送の実現を米国へと依頼した。

沖縄県教育委員会による依頼を受けた米国は、FBIおよび米国空・陸軍により移送を実施し、令和6年3月14日に沖縄県立博物館・美術館で沖縄県へと返還された。

返還当日には文化財課職員および沖縄県立博物館・美術館職員による法量の簡易測定および記録撮影を行った上で、IPM対策のため当日から27日まで2週間の期間燻蒸処理を実施した。³⁾

5. 返還された文化財

返還された文化財の内訳は、絵画4点、地図1点、物質文化財15点の計20点となっているが、特に注目を浴びたものは戦後現物が確認されていない琉球国王の肖像画「御後絵」と考えられる4点の絵画であっただろう。

「御後絵」は戦前に鎌倉芳太郎氏によって中城御殿において撮影された11点の白黒写真によってその姿・形が伝わるのみであった。戦後、鎌倉芳太郎氏によって撮影された白黒写真をもとに調査・研究が行われてきた。近年では、白黒写真の科学分析や同時代資料の顔料分析に基づき、彩色模写復元の対象とされるなど、琉球王国時代を代表する絵画として、美術史・文化史上重要な資料として位置づけられてきた。

今回の返還によって、これまで限定的な情報



十三代尚敬王御後絵



十八代尚育王御後絵



四代尚清王御後絵



国王名不明

を頼りに行われてきた研究は今後、大幅に進展することが期待されるが、すぐに調査・研究に資する状態ではないことには注意が必要であろう。

4点の御後絵と考えられる絵画からは鮮やかな色彩が見えると同時に、戦時中に受けたと考えられる水濡れや、経年による劣化も確認されることから、この歴史的な資料を後世に長く伝え残すため、まずは文化財として適切な保存修復(修理)を施す必要があるだろう。

沖縄県教育委員会では、文化庁や学識経験者による指導助言を受けて、今回返還された文化財の適切な保存修復(修理)に向けて動きを進めたいと考えている。その第一歩として、令和6年5月23日に「第一回返還文化財保存修復検討委員会」が開催された。

委員会閉会後に実施されたブリーフィングをもとに、当日すぐに報道が行われるなど、その

注目度の高さは今なお続いているように見受けられる。沖縄県教育委員会としても、今後も適切な保存修復(修理)が完了するまで、その状況を逐次お伝えすることでその期待に応えたいと考えている。

むすびにかえて

今回の文化財返還は、先人たちのたゆまぬ努力が実ったものであろうことは疑いようがない。その上で、今後私たちには返還された文化財を二度と失うことがないように、適切にこれを保存修復(修理)し、後世へと伝え残す義務がある。その現物を目にしたい、という希望は多くあるだろうが、今、先人たちから受け渡されたバトンをさらに未来へとつなぐため、今しばらくの時間をいただけるよう、ご理解願いたい。



印花紋水指



牡丹紋様香炉(1)



牡丹紋様香炉(2)



魚紋古典焼小皿



獅子型香炉(2)



獅子型香炉(1)



灰吹(灰落とし)



磁器製花瓶



銅製富士紋様花瓶



上焼片口



磁器製小皿



船紋古典焼大皿



陶器製花瓶

注
 1) 真栄平房敬氏による証言の詳細については、萩尾俊章「真栄平房敬氏の「尚家の宝物」に関する証言記録について」『沖縄史料編集紀要』第40号、2017年、沖縄県教育委員会所収を参照されたい。
 2) 詳細については、行政主席官房編「情報特集」第27号、1953年(沖縄県公文書館所蔵)を参照されたい。

3) 絵画資料については、目視による状態確認のうえで、ガスバリアシートで専用で作成した袋に入れ、脱酸素剤による殺虫処理を行った(通常、博物館では薬剤や二酸化炭素による燻蒸を行うが、資料への影響を最小限にするための方法を選択した)。物質文化財については、二酸化炭素による燻蒸を行った。その後、文化財に対して被害を与える可能性がある虫類の発生がないか確認を行い、収蔵庫へと移送した。

ダムまつり

ダム見学会あり

7/21~7/31は国土交通省及び林野庁が定める

森と湖に親しむ旬間です。

森林やダム・河川に親しんでいただくために、全国各地でイベントを開催します。沖縄県内でも「ダムまつり」を開催しますので、皆様のご参加をお待ちしています。



5/4(土)
5/5(日)

羽地ダム鯉のぼり祭り

名護市宇田井等

- ダム施設体験 (両日)
- 羽地大川川遊び (両日)
- 大迷路 (両日)
- 芝ソリ (両日)
- うなぎのつかみ取り大会 (5日 (日)) 等



問合せ先 羽地ダム鯉のぼり祭り実行委員会 ☎ 0980-53-5438

7/21(日)

金武ダムまつり

金武町金武

- ウォータースライダー
- プール体験
- 巨大迷路
- ダム湖面遊覧
- ダム堤内見学 等



問合せ先 金武ダムまつり実行委員会 ☎ 098-968-6262

8/3(土)

福地ダム夏休み自然体験会

東村川田

- カヌー体験
- 自然観察船
- 福地川川遊び
- ダム施設見学
- 積み木/木のたまごプール
- 体験フーク
- 丸太切り体験・森林パネル展示 等



問合せ先 福地ダムまつり実行委員会 ☎ 0980-43-2265

8/4(日)

倉敷ダムまつり

倉敷ダム資料館見学

- 倉敷ダム資料館見学
- 倉敷ダム湖周辺生き物探索会
- 親子森林教室手作り木工 (本棚、竹馬)
- クラフト縮太鼓作り 等



問合せ先 倉敷ダムまつり実行委員会 ☎ 098-939-1212

8/10(土)

漢那ダムまつり

宜野座村漢那

- カヌー体験
- 漢那ダムまるごと体験ツアー
- 宜野座村観光協会体験 イベントコーナー
- 漢那ダムの生き物博物館 等



問合せ先 漢那ダムまつり実行委員会 ☎ 098-968-5125

9/14(土)

大保ダムまつり

大宜味村田港

- 湖面カヌー体験
- 湖面サップ体験
- ダム堤内見学会
- 森に学ぼう in 大宜味
- モノづくり体験 等



問合せ先 大保ダムまつり実行委員会 ☎ 0980-44-3007

協賛 沖縄県治水協会/西日本建設業保証(株)沖縄支店/拓南製鐵(株)/琉球セメント(株)/沖縄県生コンクリート工業組合/沖縄県生コンクリート協同組合/(一社)沖縄県建設業協会/(一財)建設物価調査会沖縄支部/昭和化学工業(株)/(一社)沖縄県測量建設工務協同組合/(株)沖縄ホーム/有)せんえい/オリオンビール(株)名護工場/沖縄北部地区生コンクリート協同組合/那覇魚類(株)/(一社)沖縄県造園建設業協会/(一社)沖縄県木材協会/沖縄県管工業協同組合連合会/(株)技建/(株)ニック/拓南商事(株)/(株)バイオマス再資源化センター/リウコン(株)/(株)サンエー/(株)東海産業/JAグループ沖縄/沖縄ホンダ(株)/沖縄県コンクリート二次製品協同組合/沖縄コカ・コーラボトリング(株)/(株)リウボウ旅行サービス/有)中央食品加工/リルコン(株)/沖食スイハン(株)/フェイス沖縄(株)/南西石油(株)/ネイチャーみらい館(順不同)

後援 内閣府沖縄総合事務局/(一社)沖縄しまたて協会/(一財)沖縄観光コンベンションビューロー/(一社)沖縄県バス協会/沖縄森林管理署/(一社)沖縄県森林協会/(株)ラジオ沖縄/(株)エフエム沖縄/沖縄県教育委員会/(株)沖縄タイムス社/(株)琉球新報社/NHK沖縄放送局/琉球放送(株)/沖縄テレビ放送(株)/沖縄県/北部振興会/国頭村/大宜味村/宜野座村/東村/沖縄市/うるま市/名護市/金武町/日本水道協会沖縄県支部/沖縄渇水対策連絡協議会(順不同)



お問い合わせ先

「森と湖に親しむ旬間」連絡会議事務局(内閣府沖縄総合事務局河川課)

〒900-0006 那覇市おもろまち2-1-1 那覇第2地方合同庁舎2号館 TEL.(098)866-1911



流域治水